

水産の窓

令和6年冬春期(3~5月)の沿岸漁海況予報

1. 令和6年冬春期(3~5月)の海況予測

(1) 海況の概要(2月)

2月14日のNOAA人工衛星水温画像を図1に示しました。黒潮は塩屋埼の東70マイルを北北東に流去しており、その北限は143° 30' E付近で39° 30' N付近まで達し、北偏しています。

茨城県沿岸域の0m深は、13~17°C台(黒潮が流れる沖合域は19~20°C台)で、暖水の影響がみられます。気象庁「海洋の健康診断表」によると、茨城県沿岸域(142° Eまで)の0m深・100m深水温は、いずれも黒潮流路で平年よりも「やや高め~極めて高め」、それ以外の沿岸域でも概ね「やや高め~高め」で、黒潮の北偏により高水温となっています。

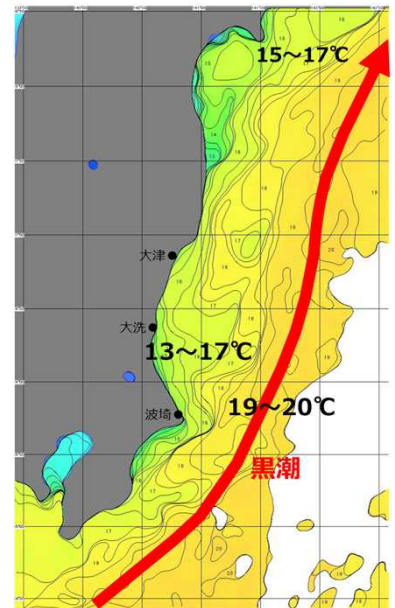


図1 NOAA人工衛星画像
(令和6年2月14日)

(2) 海況の予測(3~5月)

1月と2月の海況を、図2のように

暖水パターン: 黒潮からの暖水の影響がある

中間パターン: 暖水・冷水パターンの中間

冷水パターン: 親潮からの冷水の影響がある
に分類すると、

1月、2月ともに「**暖水パターン**」となりました。

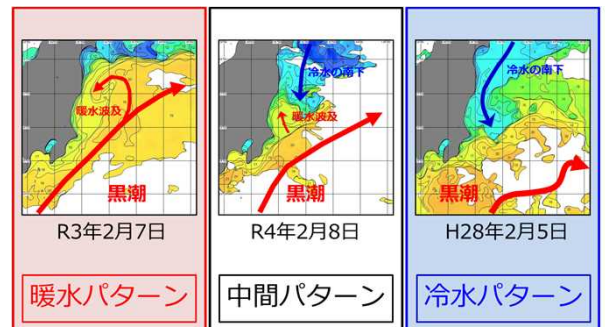


図2 各海況パターンの模式図

1月、2月の海況パターンが暖水パターンであった年は、3月以降も暖水パターンとなる傾向があります。そのため、今年の3月以降も、暖水パターンが続く可能性が高いと考えられます。

<海況予測>

- 黒潮の北偏傾向が継続しており、現在、本県沿岸域では**黒潮からの暖水の影響がみられる。**
- 親潮の勢力は弱く、親潮第一分枝も北偏傾向で、沿岸域への冷水の影響はほとんどみられない。
- 過去の傾向から、3月以降も「**暖水パターン**」が続く可能性が高い。

以上より、茨城県沿岸域の水温は引き続き「**高め傾向**」で推移すると考えられます。

2. 令和6年冬春期(3~5月)の船びき網漁況予測

(1) シラス

2月時点で4、5月のシラス漁模様を予測するのは困難ですが、2つの視点から4、5月の漁模様の予測を試みました。

① 2月のシラス漁獲水準(図3)と4+5月の平均漁獲量の関係

2月高位→4+5月平均漁獲量 515トン

2月中位→4+5月平均漁獲量 390トン

2月低位→4+5月平均漁獲量 267トン

令和6年2月は**高位**

4+5月の**漁獲量 515トンの可能性**

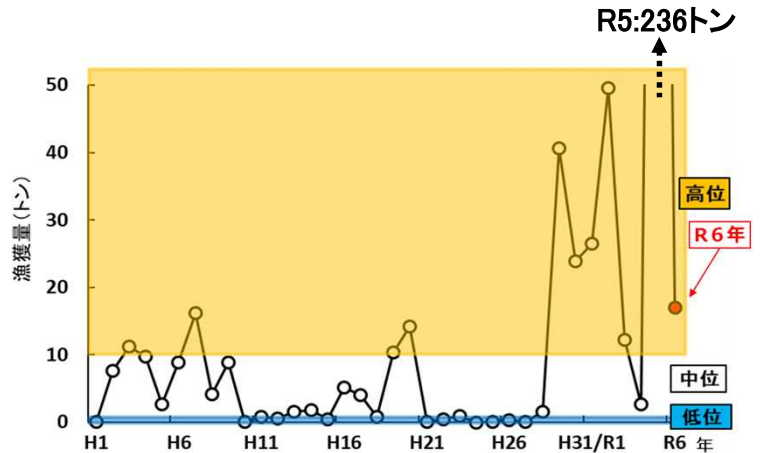


図3 2月のシラス漁獲水準

② 海況パターンと4+5月平均漁獲量の関係(図4)

暖水継続:平均漁獲量 615トン

暖水未継続:平均漁獲量 313トン

令和6年は暖水パターン**継続**予測

4+5月の**漁獲量 615トンの可能性**

海況パターン					年号	漁獲量(トン)		水準
1月	2月	3月	4月	5月		2月	4+5月	
暖	暖	暖	暖	暖	H3	11	619	高位
暖	暖	暖	暖	暖	H9	9	1,406	高位
暖	暖	暖	暖	暖	R5	236	814	高位
暖	暖	暖	暖	暖	R3	12	203	中位
暖	暖	暖	暖	暖	H11	1	34	低位
暖	暖	(暖)	(暖)	(暖)	R6	17	?	?
暖	暖	暖	中	暖	H29	41	1,099	高位
暖	暖	暖	中	暖	R2	50	204	中位
暖	暖	暖	欠測	中	H25	0	179	中位
暖	暖	暖	中	暖	R1	27	43	低位
暖	暖	暖	冷	冷	H20	14	41	低位

図4 海況パターンと4+5月の漁獲量

予測:①・②から4+5月の漁獲量は
500~600トン程度と予測

(2) イカナゴ

本県で漁獲されるイカナゴは、仙台湾からの来遊群が主体と考えられています。宮城県でのイカナゴは令和元年以降ほとんど漁獲がなく、発生量は極めて低水準で、令和6年漁期前調査でも回復の兆しが見えません(図5)。

予測:本県での漁場形成は見込めない

(3) オキアミ

本県沿岸は冷水の影響が少なく、暖かい海況が継続する予測であり、漁場形成の目安となる100m深10℃水温帯の差し込みも期待できない。

予測:本県での漁場形成は見込めない

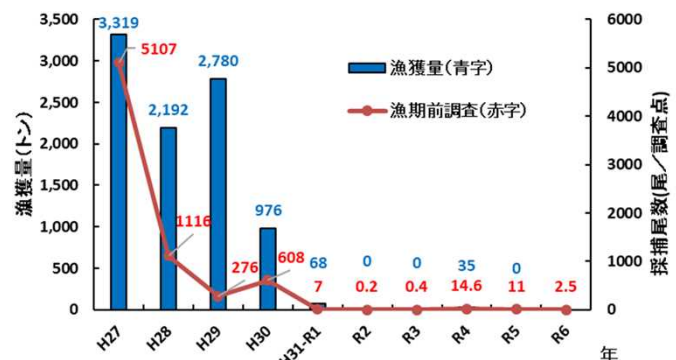


図5 宮城県の漁期前調査結果と漁獲量の推移

(回遊性資源部 茅根 正洋)

[次回予告] R6.3.15 発行の「水産の窓」は「令和6年3月の海況と今後の予測」を予定しています。